

新入学生の楽典テストに関する一考察

菊 本 哲 也

は じ め に

東京女子体育大学・同短期大学では、伝統的に音楽教育を重視してきた。しかし近年体育大学としての充実が進むにつれて、その伝統もしだいに片隅に押し込まれることになってしまった。そのようなカリキュラムの中で、より効果的な音楽教育を実践するための一つの資料とするべく、昭和52年度新入学生全員に楽典テストを行なった。

本研究はこのテストの結果とその考察とから、楽典指導の問題点を追究して、今後の指導方針への手掛かりを得ようとするものである。

研 究 方 法

楽典テストの実施

昭和52年度新入学生全員に、ソルフェージュの最初の授業内でクラスごとに実施した。

テスト受験者

東京女子体育大学体育学科 363名
東京女子体育短期大学児童教育学科 392名 (計 755名)

なお短期大学保健体育学科も実施したが、大学体育学科とほぼ同様な結果が出ており、本研究では比較の面からも同数に近い体育学科と児童教育学科だけを取りあげることにした。

テスト内容

はじめに出身高校・音楽経験(特に楽器経験)・クラブ経験・芸術選択などを記入。

問1. あなたの好きな音楽は……。

問2. 次の旋律について答えなさい。

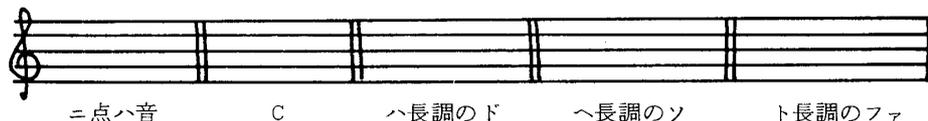


1. 各音符の下に階名をカタカナで書きなさい。
2. この曲は()調,()拍子です。
3. ①-⑥の記号や符号の名称を答えなさい。

問3. 次の速さをあらわすことばを，速い順番に番号を記入しなさい。

Allegretto , Adagio , Andante , Allegro , Moderato
 () () () () ()

問4. 次に指定した音を，全音符で記入しなさい。



以上の内容であるが，出題の不備や学生の勘違い，あるいは集計困難などから，最も知りたいことの一つである芸術選択の回答率が低く，また回答の中には学外でのいわゆる手習い，おけいこのたくいまで記入してあったりで，やむを得ずこの間は割愛することにした。高校からの内申書による調査も不可能ではないが，内申書は本来[㊦]であるから，この手段による資料の充実化はあきらめることにした。また問1の「好きな音楽」と問3の楽語の問題とは，紙面の都合上とりあげないことにする（主として楽譜の読み書きを中心に研究するものである）。

なおテストの内容から，結果と考察は各問ごとに行なうことにする。

結 果 と 考 察

I. 受 験 学 生

番外の受験学生に関するいくつかの問の回答は，次のとおりである。なお()内はパーセンテージであり，小数以下は2位で打ち切りとした。

1. 出身高校

参考資料にすぎないので，公立私立の別のみを示すにとどめる。

表 1 出 身 高 校

| | 総 数 | 都 道 府 県 立 | 市 立 | 私 立 |
|-----|-----|-------------|-----------|-------------|
| 体 育 | 363 | 197 (54.26) | 18 (4.95) | 148 (40.77) |
| 児 教 | 392 | 199 (50.76) | 17 (4.33) | 176 (44.89) |
| 計 | 755 | 396 (52.45) | 35 (4.63) | 324 (42.91) |

2. 楽器経験 (表2次頁)

次頁表2参照。このほかドラム，トランペット，サクソフォン，木(鉄)琴，三味線，トロンボーン，さらにカスタネット，マリンバ，ユーフォニウム，ホルン，オーボエ，コントラバス，オカリナが続いていた。

この表によれば，およそ半数余りの者が楽器経験を持つと答えている(総数から無回答と経

表 2 楽 器 経 験

| | 体 育 363 | 児 教 392 | 合 計 755 |
|---------|-------------------------|------------------------|--------------------------|
| 回 答 | 250(68.87) | 276 (70.40) | 526 (69.66) |
| 1 | ピ ア ノ 105(42.00) | ピ ア ノ 171 (61.95) | ピ ア ノ 276 (52.47) |
| 2 | ギ タ - 45(18.00) | ギ タ - 35 (12.68) | ギ タ - 80 (15.20) |
| 3 | オ ル ガ ン 19(7.60) | オ ル ガ ン 19 (6.88) | オ ル ガ ン 38 (7.22) |
| 4 | 笛 19 (7.60) | 笛 14 (5.07) | 笛 33 (6.27) |
| 5 | ハ ー モ ニ カ 17 (6.80) | 琴 13 (4.71) | ハ ー モ ニ カ 25 (4.73) |
| 6 | エ レ ク ト ー ン 10 (4.00) | エ レ ク ト ー ン 12 (4.34) | 琴 23 (4.37) |
| 7 | 琴 10 (4.00) | ク ラ リ ネ ッ ト 10 (3.62) | エ レ ク ト ー ン 22 (4.18) |
| 8 | メ ロ デ ィ オ ン 9 (3.60) | ハ ー モ ニ カ 8 (2.89) | ク ラ リ ネ ッ ト 12 (2.28) |
| 9 | ア コ ー デ ィ オ ン 8 (3.20) | フ ル ー ト 6 (2.17) | ア コ ー デ ィ オ ン 11 (2.09) |
| 10 | フ ル ー ト 4 (1.60) | バ イ オ リ ン 6 (2.17) | フ ル ー ト 10 (1.90) |
| 無 回 答 | 113(31.12) | 116 (29.59) | 229 |
| 経 験 な し | 70(19.28) | 43 (10.96) | 113 } 342 (45.29) |

験なしを差し引くと 413 : 54.70%となる)。なかでも近年の普及がめざましいピアノは、回答数の 52.47%を占めている。また気軽な楽器としての人気に加えて、フォークソング・ブームにも関連があると思われるギターが、ピアノに次いで多い(15.20%)こともうなずける。オルガン・笛・ハーモニカなどは、小学校・中学校での器楽合奏の体験によるものであろう。ピアノにくらべてエレクトーン(正しくは電子オルガン)は今一步普及が遅れており、高価なこともあってか予想をはるかに下まわる数値となっている。琴は一部の高校でクラブがあるためであろう(表3クラブ経験参照)、クラリネットやフルートなどは、吹奏楽団を持つ高校があるためである。

それにしても児童教育学科にピアノ経験者が多いことはうなずけるが、体育学科にもこれほど多くのピアノ経験者がいることはおどろきであり、同時に歓迎すべきでもある(女子体育ではダンスや体操、レクリエーションなどで、音楽的体験が重要である)。このことは前に述べた東京女子体育大学での音楽重視の伝統が知られているためか、あるいは日本での一般社会現象としてのピアノの普及によるものであるかは定かではないが、おそらくピアノ・ブームが大きく起因していることは間違いないであろう。

3. クラブ経験

このほかに体育学科では、卓球、剣道、スキー、ダンス、トランポリン、フェンシングなどの運動部系が続き、文化部系ではわずかに吹奏楽、合唱が各3名いた。

一方、児童教育学科では、琴、文芸、茶道、ダンス、さらに美術、家庭科、英語、児童文化、また運動部系にはハンドボール、バドミントン、水泳、バトンフラワーズが続いている。

体育学科の結果は当然といえるが、児童教育学科は女子学生一般の今日的傾向を示しており、興味深い一面がある(もっとも私立女子高校の特色あるクラブ活動の結果と取れなくもないが

……)。

なおこのクラブ経験は参考資料にすぎず、紙面の都合もあるので、ここでは深い追究はしないことにする。

表 3 クラブ 経 験

| | 体 育 363 | 児 教 392 | 合計 755 |
|-------|--------------------|----------------------------|-------------|
| 回 答 | 342 (94.20) | 298 (76.02) | 640 (84.76) |
| 1 | バレ－ B 45 (13.15) | バスケット B 27 (9.06) | |
| 2 | バスケット B 40 (11.69) | バレ－ B 25 (8.38) | |
| 3 | 器械体操 40 (11.69) | 軟 庭 22 (7.38) | |
| 4 | 陸 上 36 (10.52) | 器械体操 17 (5.70) | |
| 5 | 新 体 操 32 (9.35) | ソフト B 14 (4.69) | |
| 6 | 軟 庭 30 (8.77) | 吹 奏 楽 13 (4.36) | |
| 7 | 水 泳 22 (6.43) | 演 劇 12 (4.02) | |
| 8 | ソフト B 21 (6.14) | 華 道 11 (3.69) | |
| 9 | ハンド B 17 (4.97) | 新 体 操 合唱・剣道 陸 上 (各々) | |
| 10 | バドミントン 13 (3.80) | | |
| 経験なし | 8 (2.20) | 16 (4.48) | 24 (3.17) |
| 無 回 答 | 13 (3.58) | 78 (19.89) | 91 (12.05) |

II. 読 譜

1. 階名：問2－1

この旋律はト長調である。10点満点として1つ違うごとに1点減点としたが、次にその結果をまとめて示す。

表 4 階 名 (ト 長 調)

| | 大学 363 | 児教 392 | 合計 755 |
|-------------------|-------------|-------------|-------------|
| 正 解 | 179 (49.31) | 169 (43.11) | 348 (46.09) |
| 減 点 | 17 (4.68) | 14 (3.57) | 31 (4.10) |
| ハ長調の階名 (固定ド唱法) | 25 (6.88) | 66 (16.83) | 91 (12.05) |
| その他の階名 | 28 (7.71) | 30 (7.65) | 58 (7.68) |
| 無 解 答 | 114 (31.40) | 113 (28.82) | 227 (30.06) |

ハ長調の階名は全員が容易に読めるであろうと思われたので、次いでやさしい、あるいは慣れていると思われるト長調の階名読譜を出題した(一般に井系の方がリ系よりも読みやすいようであるから)。

まったくト長調で読めなかった者は次のとおりであり、およそ半数が読めなかったことになる。

| 体 育 | 児 教 | 合 計 |
|-------------|-------------|-------------|
| 167 (46.00) | 209 (53.31) | 376 (49.80) |

このうち、とにかく皆目何も読めなかった者、すなわち無解答が30.06% (227)もあった。はじめにふれたように、ハ長調では全員が読めるのではないかと思ひ、ト長調を出題したのであるが、その結果は上記のとおりであった。なおハ長調あるいは固定ド唱法で読んだ者もかなり(12.05%)いたが、これは調号を無視した、いわゆる“C調”(なんでもハ調で演奏するいいかげんなこと)な者ということになる。

そこでト長調という調名が、どの程度わかっているかを調べたのが、次の問2-2である。

2. 調名：問2-2

表 5 調名(ト長調)

| | 体育 363 | 児教 392 | 合計 755 |
|--------|-------------|-------------|-------------|
| 正 解 | 144 (39.66) | 154 (39.28) | 298 (39.47) |
| 減 点 | 92 (25.34) | 96 (24.48) | 188 (24.90) |
| (ト) | 1 (0.27) | — | 1 (0.13) |
| (ト調) | | | |
| その他の解答 | 84 (23.14) | 91 (23.21) | 175 (23.17) |
| 無 解 答 | 42 (11.57) | 51 (13.01) | 93 (12.31) |

正確に「ト長」と記入した者と、うっかり(?)「ト」だけ記入した者とがあつたが、いずれもト長調のつもりであろう(採点では減点した)。これらを合計すると次のとおりである。

| 体 育 | 児 教 | 合 計 |
|-------------|-------------|-------------|
| 237 (65.28) | 250 (63.77) | 487 (64.50) |

調名がわからなくてはト長調の階名読譜も不可能であろうから、問2-1の階名が読めた46.09%の者は、全員この数値の中に含まれていると思われる。

とすれば、 $487 - (348 + 31) = 108$ 名の者は、ト長(ト)調とわかっていながら階名を理解していなかったことになる。

ここでも93名(12.31%)の無解答、すなわち調名を理解できなかった者があつたことは注目すべきであろう。

なお階名読譜にしろ、調名にしろ、いずれもハ長調に続いてト長調とヘ長調をぼんやり覚えているためか、あるいはまた井とりの系列が逆になってしまったためか、「ヘ長(ヘ)」調と記入した者がかなりあつたことも、不確かな理解度を示す一例といえる。

3. 拍子：問2-2

表6 拍子（4分の4拍子）

| | | 体育 363 | 児教 392 | 合計 755 | |
|--------|---------------|-------------|-------------|--------|-------------|
| 正解 | 4分の4 | 14 (3.85) | 23 (5.86) | 37 | 514 (68.07) |
| | $\frac{4}{4}$ | 214 (58.95) | 263 (67.09) | 477 | |
| 減点 | 4.4 | 1 (0.27) | — | 1 | 178 (23.57) |
| | 4 | 100 (27.54) | 77 (19.64) | 177 | |
| その他の解答 | $\frac{1}{4}$ | 4 (1.10) | 2 (0.51) | 6 | 25 (3.31) |
| | $\frac{2}{4}$ | — | 2 (0.51) | 2 | |
| | $\frac{3}{4}$ | 3 (0.82) | 11 (2.80) | 14 | |
| | $\frac{—}{4}$ | 1 (0.27) | — | 1 | |
| | $\frac{2}{8}$ | 1 (0.27) | — | 1 | |
| | $\frac{6}{8}$ | — | 1 (0.25) | 1 | |
| 無解答 | | 25 (6.88) | 13 (3.31) | 38 | 38 (5.03) |

拍子は分数($\frac{4}{4}$)でなくCで表記しておいたが、さすがにリズム世代ともいえる今日の若者らしく、4拍子であることは91.65%の者がわかっていた。しかし「4分の4」拍子と正しく記入した者は68.07%である。

一般に「○拍子」ということが多く、つい「4」だけ記入した者が23.44%もいたが、音楽の世界では、単位音符を表わす分母が重要な意味を持っており、つねに「○分の○拍子」といえるようにしておくことが大切である。

ここでの無解答はト音記号(問2-3)に次いで2番目に少なかった。結局拍子記号Cを理解できなかった者は、わずかに8.34%(63)であり、もし $\frac{4}{4}$ と表記しておいたならば、この数値はさらに縮小したであろう。しかし一方では、高校卒業生の水準として、せめて音符の配列からでも、全員が“4拍子”であることだけは見抜いてほしいという見方もできよう。

ましてや女子体育者や小学校・幼稚園教諭を志す学生たちであってみれば、100%の理解を期待したいところである。

4. 音部記号：問2-3 ①

正解は562(74.43%)であるが、「ト」音記号と答えた者も含めると657(87.01%)となる(いわば正しく読めたということと容認した場合である)。また「ト」だけでもわかって

表 7 音部記号 (ト音記号)

| | | 体育 363 | 児教 392 | 合計 755 |
|--------|--------|-------------|-------------|-------------|
| 正解 | ト音記号 | 279 (76.85) | 283 (72.19) | 562 (74.43) |
| | トオン記号 | 23 (6.33) | 34 (8.67) | 57 (7.54) |
| 減点 | とおん記号 | 19 (5.23) | 14 (3.57) | 33 (4.37) |
| | と音記号 | 4 (1.10) | 6 (1.53) | 10 (1.32) |
| | トーン記号 | 15 (4.13) | 19 (4.84) | 34 (4.50) |
| | トオン記号 | 2 (0.55) | 4 (1.02) | 6 (0.79) |
| | トソ記号 | 2 (0.55) | 3 (0.76) | 5 (0.66) |
| | トッオン記号 | 1 (0.27) | 2 (0.51) | 3 (0.39) |
| | トーオン記号 | 1 (0.27) | 2 (0.51) | 3 (0.39) |
| | トウン記号 | 1 (0.27) | - | 1 (0.13) |
| | トソキ号 | 1 (0.27) | - | 1 (0.13) |
| | ト記号 | 1 (0.27) | - | 1 (0.13) |
| | ト音符記号 | 1 (0.27) | - | 1 (0.13) |
| | トー音記号 | - | 1 (0.25) | 1 (0.13) |
| | とう音記号 | 1 (0.27) | 1 (0.25) | 2 (0.26) |
| | その他の解答 | 等音記号 | 2 (0.55) | 4 (1.02) |
| へ音記号 | | 2 (0.55) | 2 (0.51) | 4 (0.52) |
| フェルマータ | | 1 (0.27) | - | 1 (0.13) |
| シャープ | | 1 (0.27) | 1 (0.25) | 2 (0.26) |
| ホオン記号 | | - | 1 (0.25) | 1 (0.13) |
| 無解答 | | 6 (1.65) | 15 (3.82) | 21 (2.78) |

いた者ということになれば713 (94.43%)であり、全体的にはこの記号は拍子記号とともに良く覚えていた記号ということができよう。

それにしてもこの記号はうっかり口先だけで覚え込んだためか、実にさまざまな読み方が記入されていた。「と」音の解答も含めて、ト音記号の意味を正しく理解できない者が多いことは、はなはだ残念なことである。

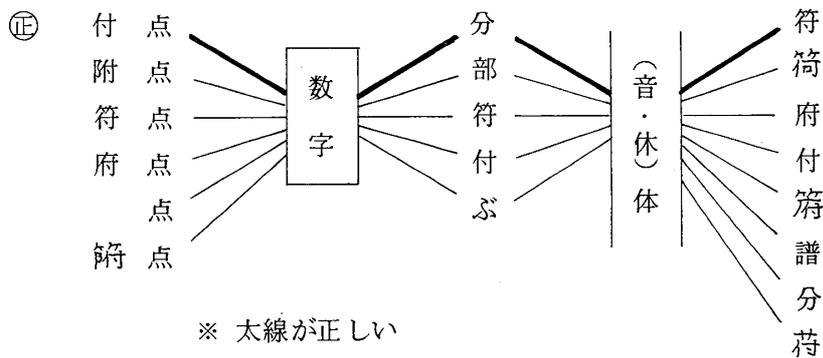
また次の音符の読み方で顕著となることであるが、誤字や当て字の傾向がここでも“等音記号”の文字に現われている。

5. 音符と休符

階名においてハ長調を避けたように、ここでも最もやさしいと思われる四分音符を避けて、二分音符、付点四分音符、八分音符を出題し、休符はたぶん不慣れと思われたので、四分休符を1つだけにした。

集計していくうちに、これほど多くの ONPU という文字があることにおどろかされてしまった。もちろん正しくは「音符」唯一つであるが、誤字や当て字によるその多様化(?)は、国語の領域とはいうものの、専門用語の不確かな使用をさまざまと見せつけられる思いがした。専門的には「その意味を理解していれば、多少の誤字・当て字はかまわない。理解することが本来なのだから……」という考え方もあるが、それにしてもいささか甘すぎる教育の結果が、このような文字の混乱を生み出したといえるのではなかろうか。

問2-3 ㊦㊧㊨は音符の、㊩は休符の名称を記入するのであるが、あまりに多彩な文字や言葉が使用されていたので、あらかじめそれらをまとめておくことにする。



このようなさまざまな文字が組み合わされていたが、中でも特にめだったのは、「〇分」を「〇ぶ」と読むことがあるために、「〇部」と記入した者が多数いたことである。これは教師の側にも反省の余地がないとはいえないであろう。

さらに休符については、かつて使用され、現在も音楽辞典に掲載されている「休止符」のほかに、次のような珍語(?)が記入されていた。

- | | | | | |
|--------|-----|-----|------|------|
| 休止 | 休止号 | 休止付 | 休止記号 | 休止ん符 |
| 休連符 | 休息 | 休符止 | 符休 | 終止符 |
| 終止付 | 終止府 | 小休符 | 休み | |
| お休みマーク | プレス | | | |

「お休みマーク」など、ほほえましいかぎりではあるが、ただ笑ってすますわけにもいかないことである。

次に各音符・休符の解答をまとめて示すことにする。

正解率で見ると二分音符，八分音符，四分休符，付点四分音符の順となっている。すなわち単純音符，単純休符，付点音符の順に理解されているわけである。予想どおりに休符の理解度は低い，付点音符はさらに休符よりも低くなっている。しかし誤字・当て字でもほぼ理解している者を含めたパーセンテージでは，単純音符の順位が変わることはないが，休符と付点音符との順位は入れかわっている。やはり全体的には休符の理解度が低いことは間違いない。ピアノ・レッスンなどで，休符を無視してただひたすら音符だけをたどってゆく学生をよく見かけるが，この数表もそのことを裏付けているようである。おそらく八分休符や二分休符，全休符などは，さらに低い数値となることであろう。

a. ♩ : 問 2-3 ㊦

表 8 二 分 音 符

| | | 体育 363 | 児教 392 | 合計 755 |
|------------------|---------|-------------|-------------|-------------|
| 正解 | 二分音符(ぶ) | 255 (70.24) | 293 (74.74) | 548 (72.58) |
| 減 点 (誤字一字) | 二部(ぶ)音符 | 18 (4.95) | 30 (7.65) | 48 (6.35) |
| | 二符音ぶ | 1 (0.27) | 4 (1.02) | 5 (0.66) |
| | 二分音付 | 3 (0.82) | 1 (0.25) | 4 (0.52) |
| | 二分音府 | 2 (0.55) | 1 (0.25) | 3 (0.39) |
| | 二分音符 | 3 (0.82) | 1 (0.25) | 4 (0.52) |
| | 二分音符 | 2 (0.55) | - | 2 (0.26) |
| | 二分音譜 | 1 (0.27) | - | 1 (0.13) |
| | 二分音分 | - | 1 (0.25) | 1 (0.13) |
| 減 点 (誤字二字) | 二部音符 | 1 (0.27) | - | 1 (0.13) |
| | 二部音譜 | - | 1 (0.25) | |
| その他の解答 | | 42 (11.57) | 31 (7.90) | 73 (9.66) |
| 無解答 | | 35 (9.64) | 29 (7.39) | 64 (8.47) |

b. ♩ : 問 2-3 ㊦

表 9 付点四分音符

| | | 体育 363 | 児教 392 | 合計 755 |
|------------------|---------------------|-------------|-------------|-------------|
| 正解 | 付点四分音符(ふ点, ふてん, 附点) | 130 (35.81) | 137 (34.94) | 267 (35.36) |
| 減 点 (誤字一字) | 符点四分音符 | 92 (25.34) | 113 (28.82) | 205 (27.15) |
| | ふてん四部音符 | 8 (2.20) | 11 (2.80) | 19 (2.51) |
| | ふてん四付音符 | 1 (0.27) | - | 1 (0.13) |
| | ふてん四分音符 | 2 (0.55) | - | 2 (0.26) |
| | ふてん四分音府 | 1 (0.27) | 1 (0.25) | 2 (0.26) |
| | ふてん四分音付 | 2 (0.55) | 1 (0.25) | 3 (0.39) |
| | ふてん四分音符 | 1 (0.27) | - | 1 (0.13) |
| | ふてん四分音譜 | 1 (0.27) | - | 1 (0.13) |
| | ふてん四分音符 | 1 (0.27) | - | 1 (0.13) |
| | ふてん四分音分 | - | 1 (0.25) | 1 (0.13) |
| 減 点 (誤字二字) | 不点四分音符 | - | 3 (0.76) | 3 (0.39) |
| | 符点四分音符 | 4 (1.10) | 10 (2.55) | 14 (1.85) |
| | 府点四分音府 | 1 (0.27) | - | 1 (0.13) |
| | ふてん四部音符 | 1 (0.27) | - | 1 (0.13) |
| | ふてん四音符 | 1 (0.27) | - | 1 (0.13) |
| | 点四ぶ音ぶ | 1 (0.27) | - | 1 (0.13) |
| | 符点四分音 | 1 (0.27) | 1 (0.25) | 2 (0.26) |
| 減 点 (誤字三字) | 四分ふ点音符 | 1 (0.27) | - | 1 (0.13) |
| | その他の解答 | 54 (14.87) | 61 (16.80) | 115 (15.23) |
| 無解答 | | 60 (16.52) | 53 (13.52) | 113 (14.96) |

c. ♪ : 問2-3㊦

表 10 八 分 音 符

| | | 体育 363 | 児教 392 | 合計 755 |
|------------------|------------|-------------|-------------|-------------|
| 正解 | 八分音符 (ふ) | 236 (65.01) | 272 (69.38) | 508 (67.28) |
| 減 点 (誤字一字) | 八 部 音 符 | 14 (3.85) | 21 (5.35) | 35 (4.63) |
| | 八 分 音 付 | 6 (1.65) | 4 (1.02) | 10 (1.32) |
| | 八 分 音 府 | 2 (0.55) | 1 (0.25) | 3 (0.39) |
| | 八 分 音 符 | 2 (0.55) | - | 2 (0.26) |
| | 八 分 音 符 | 2 (0.55) | 1 (0.25) | 3 (0.39) |
| | 八 分 音 分 | - | 5 (1.27) | 5 (0.66) |
| | 八 符 音 符 | - | 2 (0.51) | 2 (0.26) |
| (誤字二字) | 八 ぶ 音 符 | 2 (0.55) | - | 2 (0.26) |
| | 八 分 符 | 1 (0.27) | - | 1 (0.13) |
| | 八 音 符 | 1 (0.27) | - | 1 (0.13) |
| そ の 他 の 解 答 | 46 (12.67) | 41 (10.45) | 87 (11.52) | |
| 無 解 答 | 51 (14.04) | 45 (11.47) | 96 (12.71) | |

d. ♪ : 問2-3㊦

表 11 四 分 休 符

| | | 体育 363 | 児教 392 | 合計 755 |
|------------------|------------|-------------|-------------|-------------|
| 正解 | 四分(ふん)休符 | 195 (53.71) | 240 (61.22) | 435 (57.61) |
| 減 点 (誤字一字) | 四 部 休 符 | 9 (2.47) | 20 (5.10) | 29 (3.84) |
| | 四 分 休 付 | 7 (1.92) | 1 (0.25) | 8 (1.05) |
| | 四 分 休 符 | 1 (0.27) | - | 1 (0.13) |
| | 四 分 休 符 | 1 (0.27) | - | 1 (0.13) |
| | 四 分 休 符 | 1 (0.27) | 1 (0.25) | 2 (0.26) |
| | 四 分 体 符 | 2 (0.55) | 4 (1.02) | 6 (0.79) |
| | 四 分 休 府 | - | 1 (0.25) | 1 (0.13) |
| | 四 府 休 符 | 1 (0.27) | - | 1 (0.13) |
| | 四 府 休 符 | 1 (0.27) | 1 (0.25) | 2 (0.26) |
| (誤字二字) | 四 分 休 止 符 | - | 3 (0.76) | 3 (0.39) |
| | 四 分 体 符 | 1 (0.27) | - | 1 (0.13) |
| | 四 休 符 | 2 (0.55) | - | 2 (0.26) |
| | 四 分 休 止 | - | 1 (0.25) | 1 (0.13) |
| | 四 部 休 止 符 | - | - | - |
| 四 ぶ 休 止 | 1 (0.27) | - | 1 (0.13) | |
| そ の 他 の 解 答 | 92 (25.34) | 81 (20.66) | 173 (22.91) | |
| 無 解 答 | 49 (13.49) | 39 (9.94) | 88 (11.65) | |

正解率で見ると二分音符，八分音符，四分休符，付点四分音符の順となっている。すなわち単純音符，単純休符，付点音符の順に理解されているわけである。予想どおりに休符の理解度は低い，付点音符はさらに休符よりも低くなっている。しかし誤字・当て字でもほぼ理解している者を含めたパーセンテージでは，単純音符の順位が変わることはないが，休符と付点音符との順位は入れ変わっている。やはり全体的には休符の理解度が低いことは間違いない。ピアノ・レッスンなどで，休符を無視してただひたすら音符だけをたどってゆく学生をよく見かけるが，この数表もそのことを裏付けているようである。おそらく八分休符や二分休符，全休符などは，さらに低い数値となることであろう。

Ⅲ. 記 譜

最後の問題である問4は，日本音名，ドイツ音名（アメリカ音名も同じ），および階名によるト音譜表への音の記入であるが，“全音符で”とあるにもかかわらず，さまざまな音符や符号で解答してあった。そこで音符の名称における誤字・当て字の場合と同様に，全音符以外のそれらの符号による解答でも，五線上の位置が正しいものは準正解（減点の解答）とみなすことにした。

なお各問により解答に変化が見られるので，問ごとに結果と考察を進めることにする。

1. 二点ハ音：問4 - 1

表 12 日本音名（二点ハ音）

| | | 体育 363 | 児教 392 | 合計 755 |
|-------------------|----------|-------------|-------------|-------------|
| 正 | 解 | 49 (13.49) | 60 (15.30) | 109 (14.43) |
| 減 | 点 | 5 (1.37) | 8 (2.04) | 13 (1.72) |
| その 解 他 答 | 高さの異なるハ音 | 33 (9.09) | 45 (11.47) | 78 (10.33) |
| | そ の 他 | 15 (4.13) | 25 (6.37) | 40 (5.29) |
| 無 | 解 答 | 261 (71.90) | 254 (64.79) | 515 (68.21) |

この表を見てまずおどろかされることは，無解答の数である。これほどの無解答はほかになく，今日の若者にとって，もはや日本音名は無縁のものとなりつつあることを示しているようである。戦後30年余りを経た今日，“ハニホヘトイロ”は色あせてしまい，あの《ドレミの歌》の流行とともに，音の名称は“ドレミファソラシ”に固定してしまったのであろうか。たしかにプロの音楽家の間でも，C D E F G A Hのドイツ音名を用いることが多く，日本音名は音響学，音楽理論，調律，あるいは音楽学校の入試問題等で生きていただけかもしれない。

しかし音の高さを表わす大切な符号であるから，無視するわけにはいかない。むしろ指導の際に適切な解説を加えて，その意味を正しく理解させることが大切であろう。

ところで日本音名はもともとドイツ音名を模したにすぎず，片仮名・平仮名による現在の表

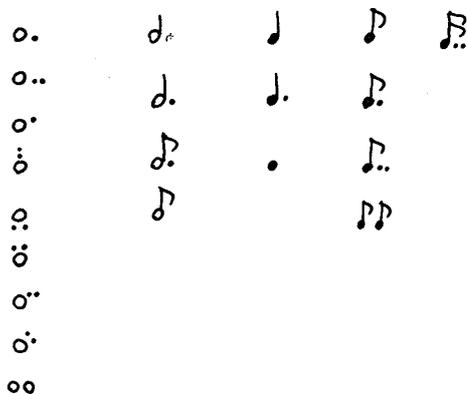
示法にいささか無理があるとも思われる。

最もよく知られている“中央のハ”が、すでに一点音であることも理解しにくいかも知れない。ト音譜表だけに慣れている多くの人達にとっては、“中央のハ”こそ片仮名の「ハ」である方が自然であろう。このような発想は突飛なように思えるかも知れないが、そのような改正もそろそろ考えられても良いのではあるまいか。もちろん専門的、あるいはインターナショナルな音楽界からは、大いに反論されることはわかりきっている。しかしちなみに西欧各国の音名をいくつか並べて見ると、必ずしも統一されているわけではないことがわかる。

いずれにせよ教育効果の面から、一考の余地があるのではないかとと思われる。

| | | | | | | | | | |
|---|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|----------------|
| 日 | いーろ | はーろ | はーろ | ハ—ロ | ハ—ロ | ハ—ロ | ハ—ロ | ハ—ロ | ハ |
| 独 | A ₂ —H ₂ | C ₁ —H ₁ | C—H | c—h | c ¹ —h ¹ | c ² —h ² | c ³ —h ³ | c ⁴ —h ⁴ | c ⁵ |
| 米 | A ₀ —B ₀ | C ₁ —B ₁ | C ₂ —B ₂ | C ₃ —B ₃ | C ₄ —B ₄ | C ₅ —B ₅ | C ₆ —B ₆ | C ₇ —B ₇ | C ₈ |
| 伊 | la-si -2-2 | do-si -1-1 | do-si 1 1 | do-si 2 2 | do-si 3 3 | do-si 4 4 | do-si 5 5 | do-si 6 6 | do 7 |

次に全音符以外のさまざまな音符(?)を示す。



これらは「二点」の意味がわからないために、“点が2つの音符”をあれこれと考え出したものであろうが、まさに珍符といえるものばかりである。

2. C : 問4-2

この問は一点、二点などのオクターブの違いには無関係なドイツ音名Cであるが、問4の5つの解答はいずれも第3問の二点ハ音を期待した出題であり、そのことに気付けばむしろ容易な問題であったはずである。またジャズ・コードネームを知っている者がかなりあり、それと間違っCメジャーの和音を記入した解答が多かった。ドイツ音名のCは五線の下に、コードネームのCは五線の上を書くのが慣例であるが、このことは知らなかったのであろう。そこで採点上は減点したものの、ここではCメジャーの和音も準正解として取り扱うことにした。

それにしても一点ハ音の解答が多く、いかに“中央のハ”が有名(?)であるかがうかがわれる。

表 13 ドイツ音名(C)

| | 体育 363 | 児教 392 | 合計 755 |
|--------|-------------|-------------|-------------|
| 正 解 | 74 (20.38) | 97 (24.74) | 171 (22.64) |
| 減 点 | 35 (9.64) | 33 (8.41) | 68 (9.00) |
| その他の解答 | 43 (11.84) | 67 (17.09) | 110 (14.56) |
| 無 解 答 | 211 (58.12) | 195 (49.74) | 406 (53.77) |

この問は二点ハ音に次いで無解答が多い(表12参照)。ジャズ・コードネームとの勘違いが多いことから、少なくとも76名(10.06%)以上の者がコードネームを知っていたことがわかった(正誤を問わず、和音を記入した者が76名あった)。これはギターやエレクトーンの楽譜だけでなく、学校の音楽教室にもすでにコードネームが導入されていることがめずらしくないためであろう。

また4分の4拍子を表わす“C”と間違えて、五線上にCあるいは $\frac{4}{4}$ と記入した解答もいくつもあった。

それにしても22.64%の者がドイツ音名を知っていたということは、わずかに16.15%の日本音名正解(表12参照)にくらべて、ドイツ音名の方がより強く現代に活着しているということになるのではあるまいか。

3. ハ長調のド : ヘ長調のソ : ト長調のファ

この3つの問は同種であるから、まとめて考察を進めることにする。まず各々の結果を次に示す。

表 14 ハ長調のド

| | 体育 363 | 児教 392 | 合計 755 |
|--------|-------------|-------------|-------------|
| 正 解 | 280 (77.13) | 316 (80.61) | 596 (78.94) |
| 減 点 | 40 (11.01) | 40 (10.20) | 80 (10.59) |
| その他の解答 | 11 (3.03) | 11 (2.80) | 22 (2.91) |
| 無 解 答 | 32 (8.81) | 25 (6.37) | 57 (7.54) |

表 15 へ長調のソ

| | 体育 363 | 児教 392 | 合計 755 |
|--------|-------------|-------------|-------------|
| 正 解 | 228 (62.80) | 256 (65.30) | 484 (64.10) |
| 減 点 | 31 (8.53) | 36 (9.18) | 67 (8.87) |
| その他の解答 | 50 (13.77) | 57 (14.54) | 107 (14.17) |
| 無 解 答 | 54 (14.87) | 43 (10.96) | 97 (12.84) |

表 16 ト長調のファ

| | 体育 363 | 児教 392 | 合計 755 |
|--------|-------------|-------------|-------------|
| 正 解 | 226 (62.25) | 256 (65.30) | 482 (63.84) |
| 減 点 | 29 (7.98) | 28 (7.14) | 57 (7.54) |
| その他の解答 | 54 (14.87) | 56 (14.28) | 110 (14.56) |
| 無 解 答 | 54 (14.87) | 52 (13.26) | 106 (14.03) |

問2のト長調の旋律は50.19%（表4参照）しか読めなかったのに、ここでは71.39%もの者がト長調のファを記入できている。これは旋律と1つの音だけとの違いによるものであろう。記入する方がむしろ難しいはずであるが、テスト慣れした世代にとっては、旋律を読む（实际的）より、五線上を探して1つの音を記入する（理論的）方が容易になっているのかもしれない。

また最もやさしい出題は問2以来避けてきたのであるが、ここではその最もやさしいといえる“へ長調のド”を出題してある。これは他の2つの問（へ長調のソ、ト長調のファ）へのリードのつもりであったが、さすがに89.33%の正解および準正解となっている。へ長調、ト長調の課題も70%を越えており、ほぼ満足な正解率といえよう。

なおよりやさしいはずのト長調の正解率が、わずかながらもへ長調より低くなっているが、これは階名に起因するものと思われる。すなわちファよりもソの方が慣れ親しまれているためであろう。

また正解率が主音、属音、下属音の順番となっていることも、偶然かも知れないがなにかうなずけるものがある。

無解答数もこの3つの課題では大変小さい数値を示している。

お わ り に

各問の結果については、各々に考察を加えて来たので、ここではまず体育学科と児童教育学科との比較を取りあげることとする。

すでに各問の結果を示す数表で明白なおおりに、階名を除くすべての解答において、児童教育学科の方が正解率のパーセンテージが高くなっている。これは児童教育学科にとってその目的

からして当然のことであろう。かりに体育学科の正解率をこのままで良いとしても、児童教育学科のパーセンテージは、むしろより高い数値を期待したいくらいである。

ところでこのテストの結果で最も気がかりなことは、その出来不出来を左右する大きな原因の1つとなっているところの、目に余る誤字・当て字や符号（音符・休符等）の不確かな使用である。このような解答を記入した若者たちを育む土壌となっているのは、いったい何であろうか。そこでその要因や背景についての推察を試みることにする。

テレビ・ラジカセ世代、あるいはまた漫画世代などといわれる現代の若者にとっては、読み書きに多少の不都合があっても、日常生活には何らの支障もないようである。今日の社会は、朝起きてから夜床に就くまで、およそあらゆる活動の場が映像や音声に頼ることで十分間に合うのである。また全国的な郵便物の増加も、その大部分が印刷物であり、電話器の普及とともに手紙を書くことも少なくなっているといわれる。

このような現代社会においては、文字を書くことも、ましてや楽譜を読み書きすることも、それほど大切なことではなくなって来たのかも知れない。しかし教育の立場からは、ただ単に社会生活に必要な事物を学ばば良いのではないことを、学生生徒に正しく伝達し、その学習意欲をそそるよう指導しなければならない。

受験地獄といわれる今日、受験に直接関係する教科は、それがたとえ自主的発起ではないにしても、大いに学習意欲を燃やして教習されている。それらの教科は一部の専門コースへ進学する者を除いては、それほど社会生活に必要な不可欠ではなく、受験という一時的目標のためにのみ教習されているのが実情であろう。これらの事情から、現代の学生生徒、ときには教師さえもが、いかに近視眼的学習態度であるかが察せられる。

こうした背景の前では、楽典など取るに足らない領域として取り残されてしまったのかも知れない。なるほど音楽の授業は楽しく歌って過ごせばことたりるし、なにももしかつめらしく記譜の約束事などを強制することもないという意見もある。またそのような傾向のテキストも実際に使用されているようである。しかし美しい音楽をいつまでも残すために、多くの先達が長い年月をかけてまとめあげて来た記譜法を、もし後世の人々が解読できなくなっているとしたら、それはあまりに惜しいことではあるまいか。楽譜そのものはもちろん音楽ではなく、約束された記号や符号によって、かろうじて音楽を記録したものにすぎない。

だれもが楽譜を読んで、そこに記録されている音楽を再現できることこそ音楽教育のひとつの理想であるが、それらの基盤をなすのが楽典であってみれば、安易にその教習をあきらめてはならないのである。

こうした心配はなにも音楽だけではなく、他のあらゆる領域にあてはまることである。たとえば数学における電卓登場のように、音楽においても、楽譜を入れれば即座に音楽が流れ出るマシンも、やがて現われるかも知れない。しかしそこにはすでに芸術は存在せず、単なる物理的音響による無情のサウンズ・スペースが拡がり、まさにSF的世界の現出を招くことになるのではあるまいか。

このような誇大妄想的な推論が、取り越し苦労であってくれることを願いつつ、この小論を閉じることにする。

参 考 資 料

- 標準音楽辞典 音楽之友社
- 新しい音楽通論 菊本哲也著・全音楽譜出版